

「浄土真宗正現寺」 新住職就任のご挨拶

正現寺の裏山では、春の山菜を摘むことのできる、うらかな春の日々が続いております、皆様は如何お過ごしでしょうか。正現寺は、先般にお伝えしておりました通り、3月をもって本願寺派を離脱する手続きを完了いたしました。そして私、小池龍之介（龍照）が、4月1日をもって新生「浄土真宗正現寺」の新住職に就任いたしました。これをきっかけといたしましてこの寺報に、正現寺ご門徒の皆様へ、就任のご挨拶を寄稿させていただければと思います。

これからは毎月、山口の正現寺と東京の月読寺を行ったり来たりしながら法務に取り組むこととなりますが、住職に就任いたしましたからには、法務を「職務」として精一杯励んでまいりますので、どうぞよろしく御願いたします。

昨年おこなわれました、正現寺のこれからを決める投票結果では、本願寺派を離脱することが多数決で決定し、その手続きの経緯は別文書にまとめられている通りです。ただしその投票結果は、ご承知の通り53対46と僅差でありまして、少なからざるご門徒が新しい路線に抵抗を感じておられることは、重く受け止めております。皆様の不安が解消されるように、伝統を守っていく姿勢を明らかにするつもりです。

また、三度にわたる門徒集会において、第一回において私が、正現寺を継承することに不安と抵抗がある旨を述べましたのに、第二回以降、考えを改めて継承の意志を示しましたことから、「言うことが変わって安心できない」という印象を受けたという御意見をいただきました。私自身、今回の継承については正現寺の存続についての責任を優先して決断をいたしましたものの、未だに少しの戸惑いがあるのも事実です。そのように不完全な人間ではありますけれども、この責任を引き受けましたからには、全力をつくしてまいります。

ただし、今は、まだ何も始まっていない状況ですから、「いったい、どのように変わってしまうのだろう」と、不安や憶測が生じてしまうことも、あるかもしれません。しかし、実際に、1年、2年と見守っていただければ、これまでと何も変わることなく法務は執行されていくことにご安心いただけることと思います。あくまでも皆様の御気持ちに耳を傾けながらこれまでの枠組みは守っていきます。あくまでその上で、従来正現寺において私がおこなってきたような社会事業をも展開することで、「このお寺を支えていて良かった」と誇りに思っていただけのようなお寺にいたします。

新しい執行部のもとに運営されていく新生・正現寺のなりゆきを見守りつつ、気になる点がありましたらご遠慮なく、率直にご指摘いただければと思います。

小池龍之介（龍照） 合掌